

## 第4章 個別の調査結果

## 地域福祉分野

## (1) 地域福祉調査

### 地域活動の経験

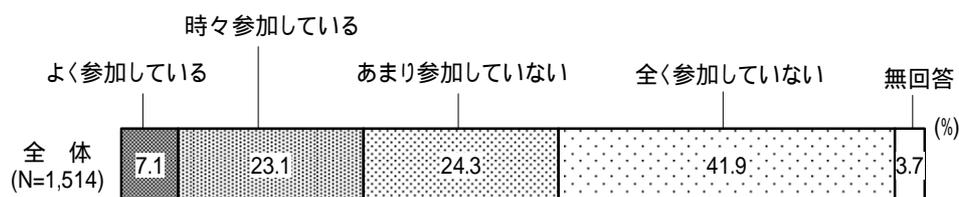
地域活動やボランティア活動、お住まいの地域の行事に、どの程度参加しているのかたずねました。

「まったく参加していない」が半数以上となっています。「よく参加している」、「時々参加している」を合わせると、参加しているのは2割強となっています。



#### 解説 (前回(平成13年度調査)との比較)

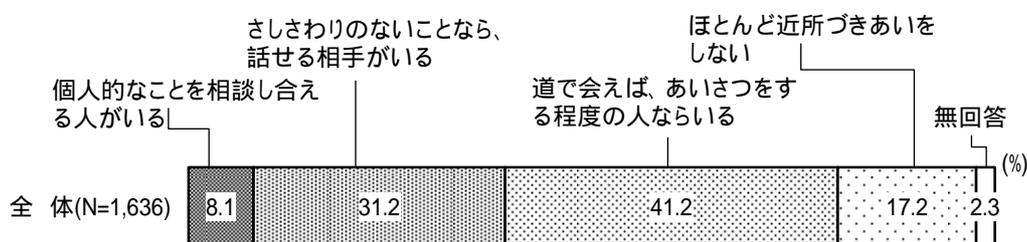
前回調査では、「全く参加していない」は41.9%となっています。地域活動離れが進んでいる様子が見えます。



## 近所づきあい

隣近所とのつきあいの程度がどのようなものかたずねました。

「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる(41.2%)」が最も多く、「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる(31.2%)」が続いています。「ほとんど近所づきあいをしない」のは、2割弱となっています。



### 解説 (用語)

#### 地域活動

地域の社会的諸問題の解決や福祉向上のために、住民が主体となって地域を拠点として行われる活動。

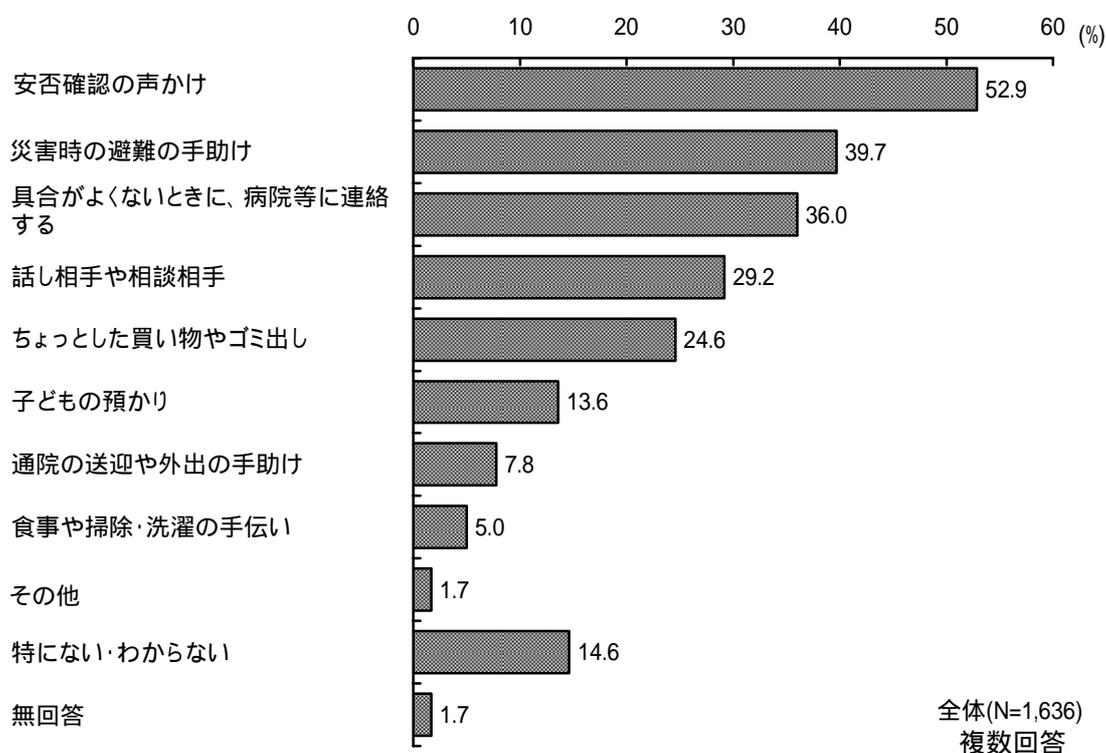
#### ボランティア活動

自発的に、他者や社会のために行い、金銭的な利益を第一に求めない活動。また、誰もが暮らしやすい豊かな社会をめざして、人や団体とつながり、社会の課題の解決に取り組む活動。「自発性・主体性」「社会性・連帯性」「無給性・無償性」「創造性・先駆性・開拓性」がボランティアの4原則といわれる。

## 行いたい手助け

近所に、高齢者や障害のある方の介助・介護、子育てなどで困っている家庭があった場合、したいと思う手助けについてたずねました。

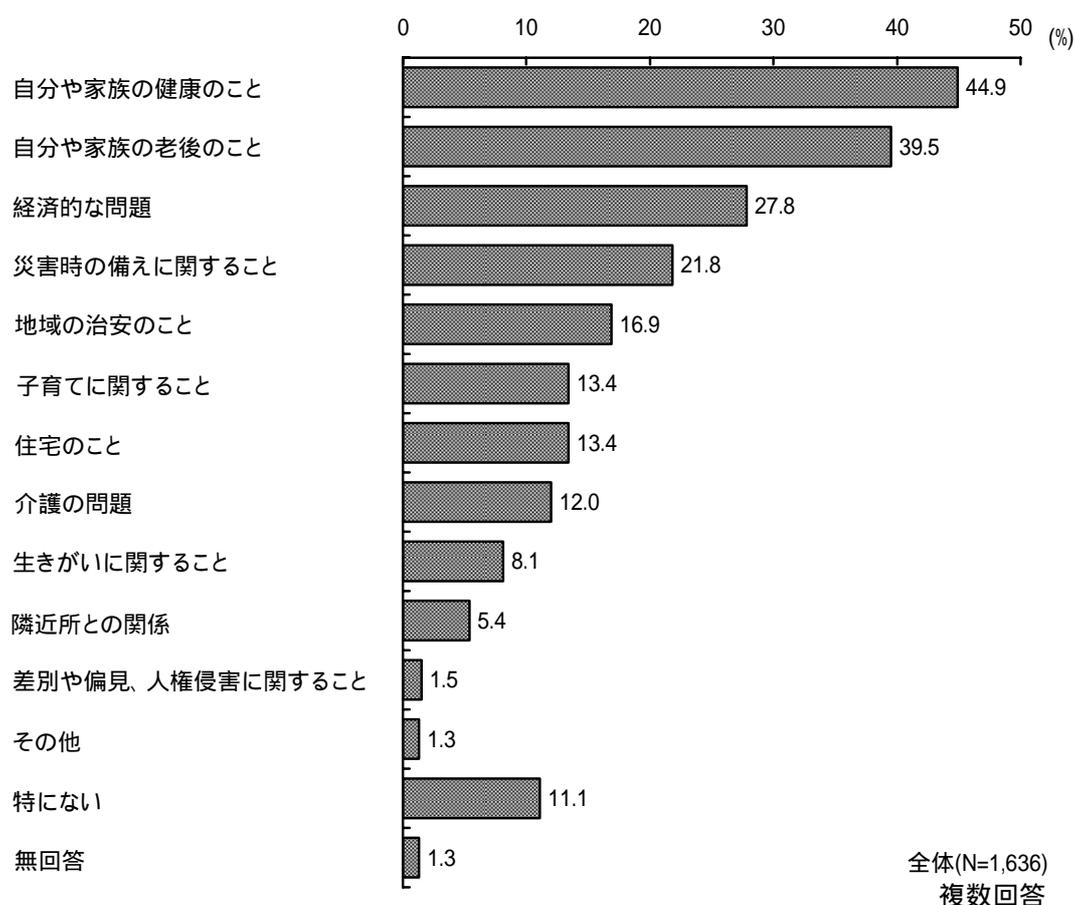
「安否確認の声かけ(52.9%)」が最も多く約半数の人が手助けしたいこととしてあげています。このほか、「災害時の避難の手助け(39.7%)」、「具合がよくないときに、病院等に連絡する(36.0%)」が上位にあげられています。



## 不安に感じること

日常生活において感じている悩みや不安  
についてたずねました。

「自分や家族の健康のこと(44.9%)」が最も多く、半数近くの人が悩みや不安を感じています。このほか、「自分や家族の老後のこと(39.5%)」、「経済的な問題(27.8%)」が上位にあげられています。



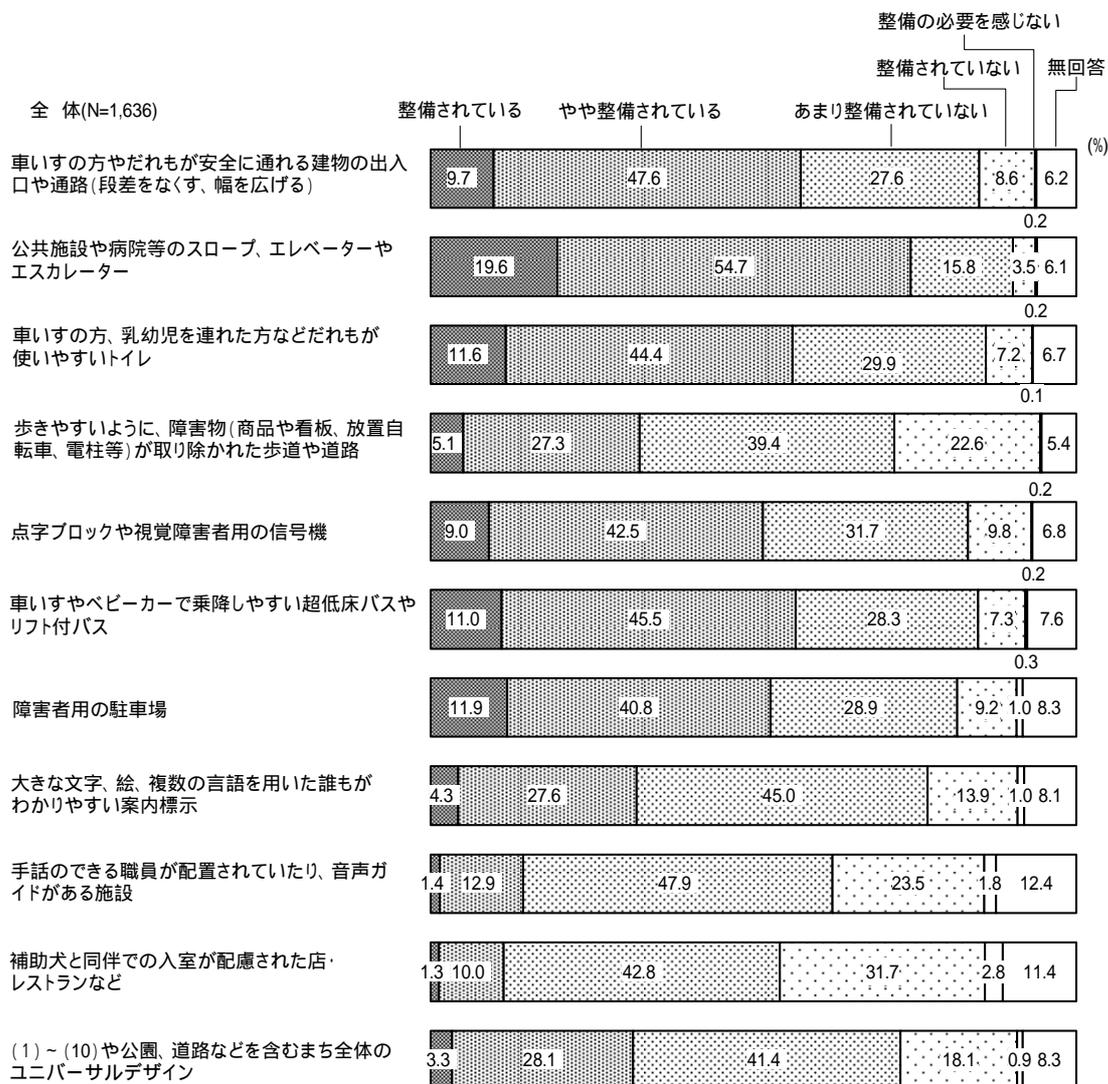
### 関連する自由回答の抜粋

- ・ 働いているうちは何とか暮らせていけても退職したら家賃のこともあり、公営住宅に優先的に入居させてほしい。住宅のこととても不安(女性、50～54歳)。
- ・ 仕事を続けるために0歳児を入所させたかったが枠に入れず、一時保育の保育料を月8万円払っていたが、20歳代の夫婦の家計にとっては極めて苦しかった。この期間のことを思うと二人目の出産は難しく思う(女性、25～29歳)。

## バリアフリー

市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路について、  
障害のある人や妊婦、子ども連れ、高齢者等が利用しやすいように  
整備されていると思うかたずねました。

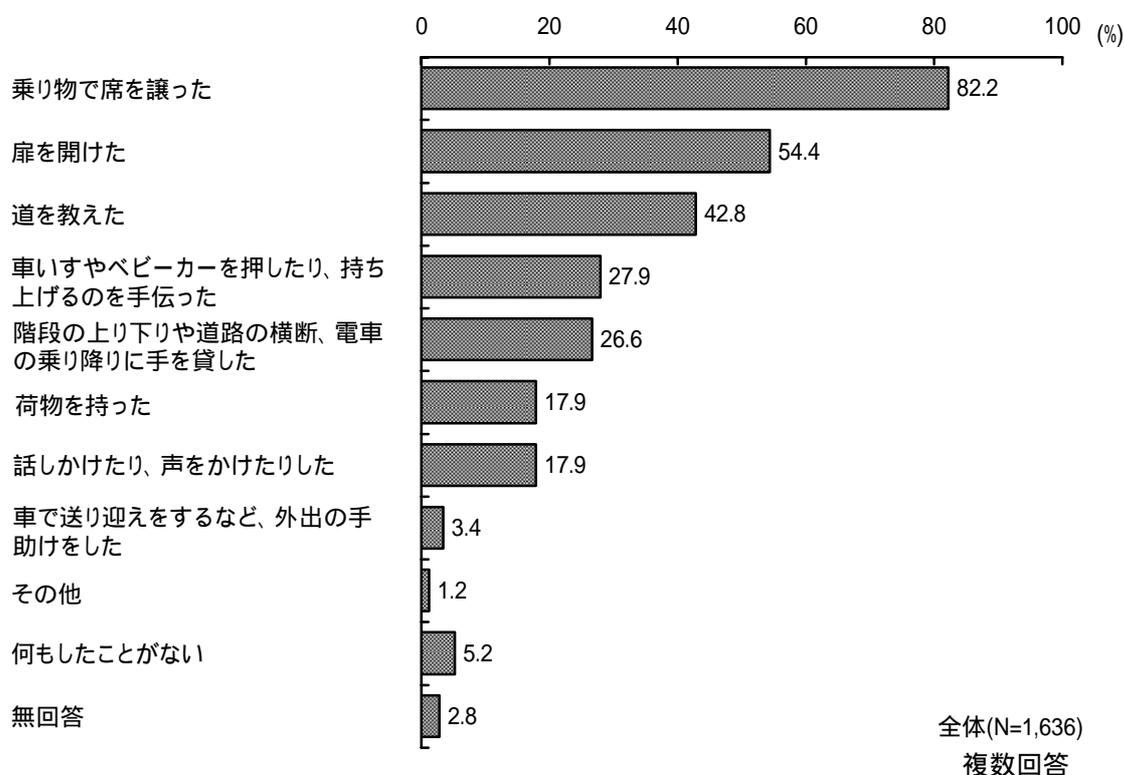
「公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター」が最も整備されていると感じられています。一方、「補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど」や「手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設」は整備されていないと感じられています。



## 外出先での手助け

街や近所で、障害のある人や高齢者、妊婦、乳幼児を連れた方などに  
したことがあるお手伝いについてたずねました。

「乗り物で席を譲った」が最も多く、8割以上の方がしたことがある手助けです。このほか、「扉を開けた(54.4%)」、「道を教えた(42.8%)」が上位にあげられています。



### 解説 (用語)

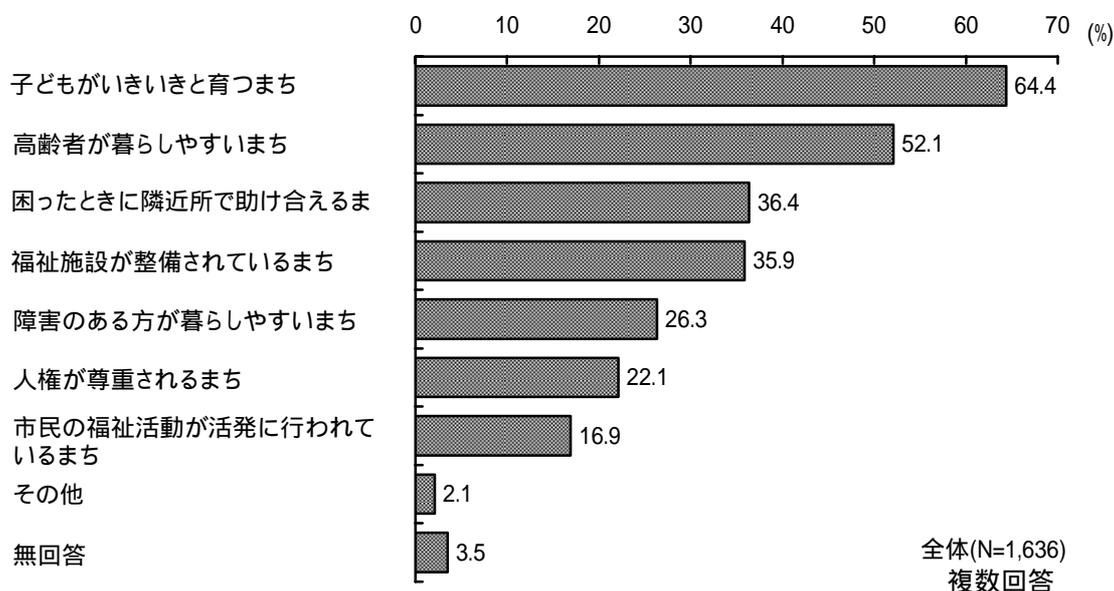
#### バリアフリー

障害のある人が社会生活をしていくうえで妨げとなる障壁を除去するという意味で、建物や道路などの段差など、生活環境上の物理的障壁の除去のこと。「心のバリアフリー」といった表現で、より広く社会参加を困難にしている社会的・制度的・心理的な全ての障壁の除去という意味でも用いる。

## 理想とする地域像

理想とする地域像について、考えに近いものをたずねました。

「子どもがいきいきと育つまち(64.4%)」と「高齢者が暮らしやすいまち(52.1%)」が理想とする地域像として上位にあげられています。



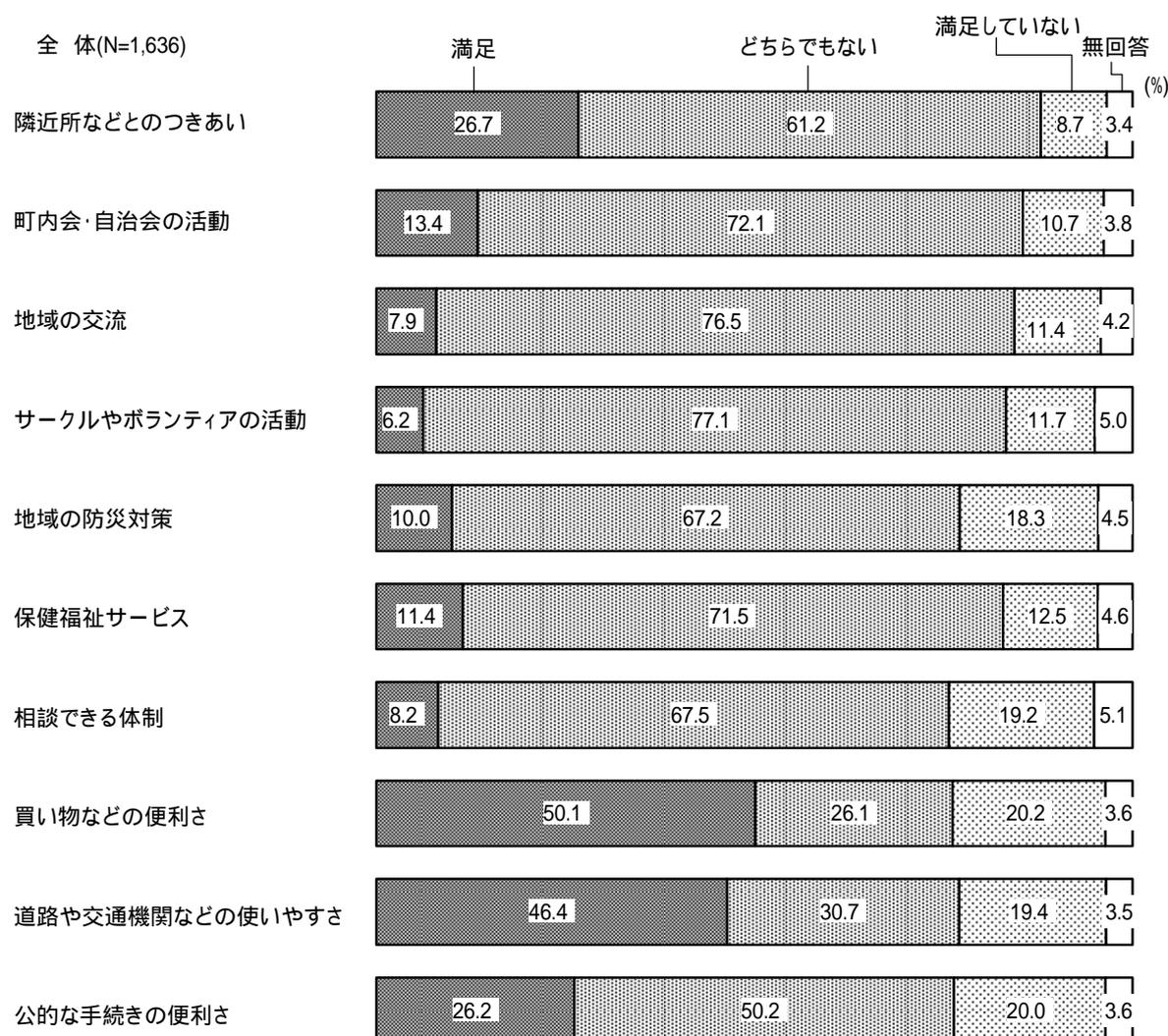
### 関連する自由回答の抜粋

- ・ 子どもの学習活動が充実するような施策や見直しを常に行って行ってもらいたい。例えば、市内の小中学生が、より本物の高いレベルの中で活動できるように「府中の森芸術劇場」の無料・優先使用などを検討し実現してもらいたい(女性、40～44歳)。
- ・ 高齢化社会への対応は、都心より郊外都市の方が力を入れるべき。マンションが林立するまちになり、高齢者の増加も続くなかで、介護システムを含めて安心して10年、20年後を住みよいと思える町にしたい(男性、55～59歳)。

## 地域生活の満足度

お住まいの地域の暮らしやすさについて、  
満足度を3段階でたずねました。

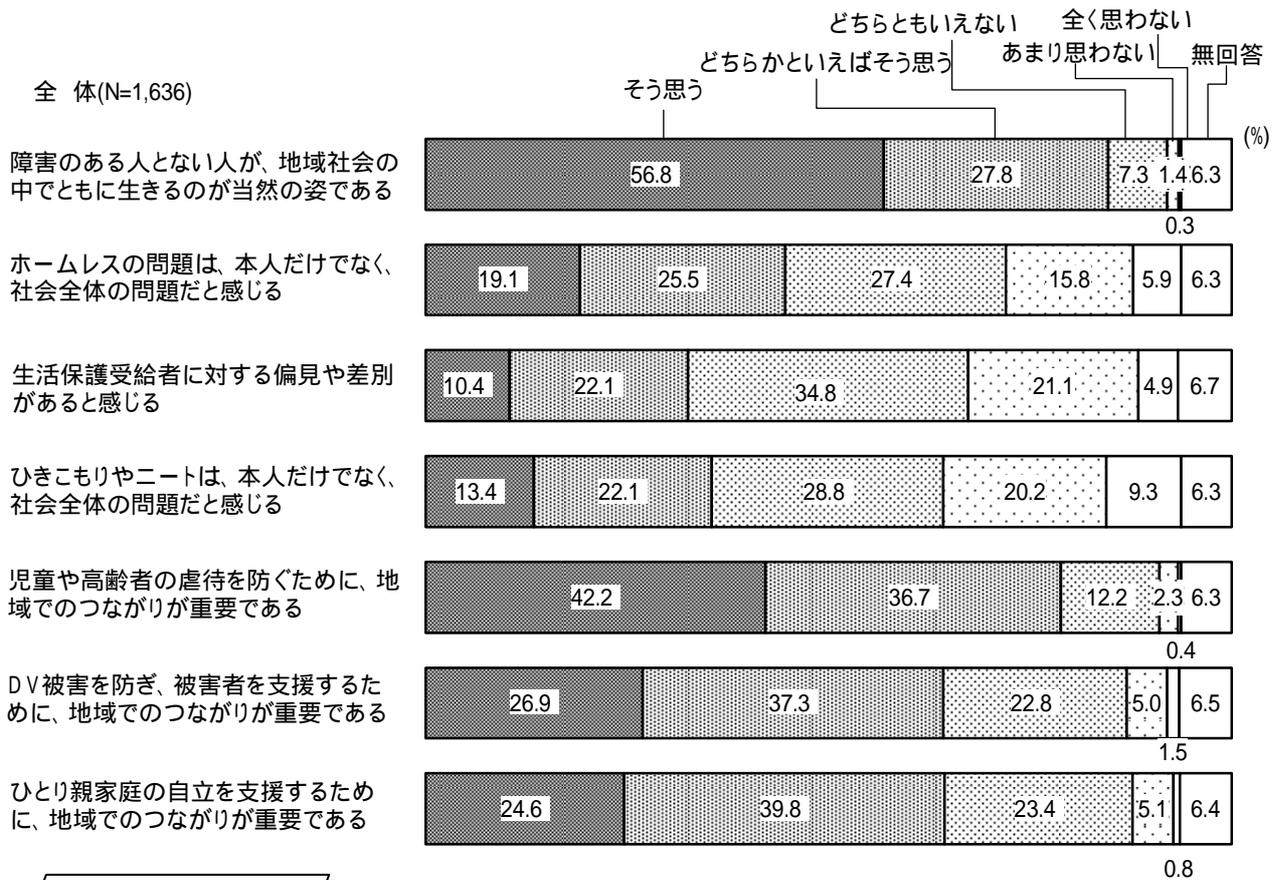
「買い物などの便利さ」と「道路や交通機関などの使いやすさ」は満足度が高く、およそ半数の人が「満足」と感じています。一方、「サークルやボランティア活動」、「地域の交流」、「相談できる体制」は、「満足」との回答が1割を下回っています。



## ソーシャルインクルージョン

ソーシャルインクルージョンについての考え方を7つの項目についてたずねました。

最も賛同を得た考え方は、「障害のある人とない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である」で、が8割を超えています。一方、「生活保護受給者に対する偏見や差別があると感じる」、「ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる」といった考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は3割程度となっています。



### 解説 (用語)

#### ソーシャルインクルージョン

社会的包含。自立生活上何らかの支援を必要としている人々を社会の構成員として社会連帯の中に包み込み、健康で文化的な生活が営めるようにしようとする考え方で、社会から疎外・排除されている人々を地域社会の仲間として受け入れていこうとする概念。

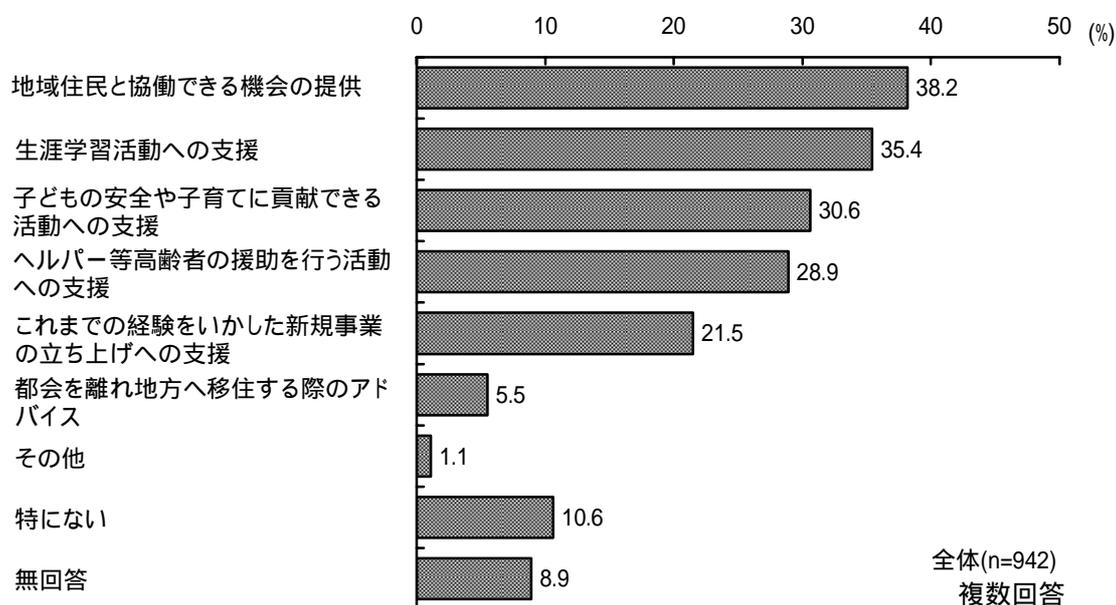
#### DV(ドメスティック・バイオレンス)

夫や恋人など親密な関係にある(またはあった)男性から女性に対して振るわれる暴力。身体的な暴力だけでなく、精神的、経済的、性的な暴力などあらゆる暴力が含まれる。

## 地域活動支援への要望

団塊世代も含めた40歳以上の人に、  
定年退職後の地域活動支援への要望をたずねました。

「地域住民と協働できる機会の提供(38.2%)」が最も多く、「生涯学習活動への支援(35.4%)」、「子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援(30.6%)」が3割以上の人が望んでいます。



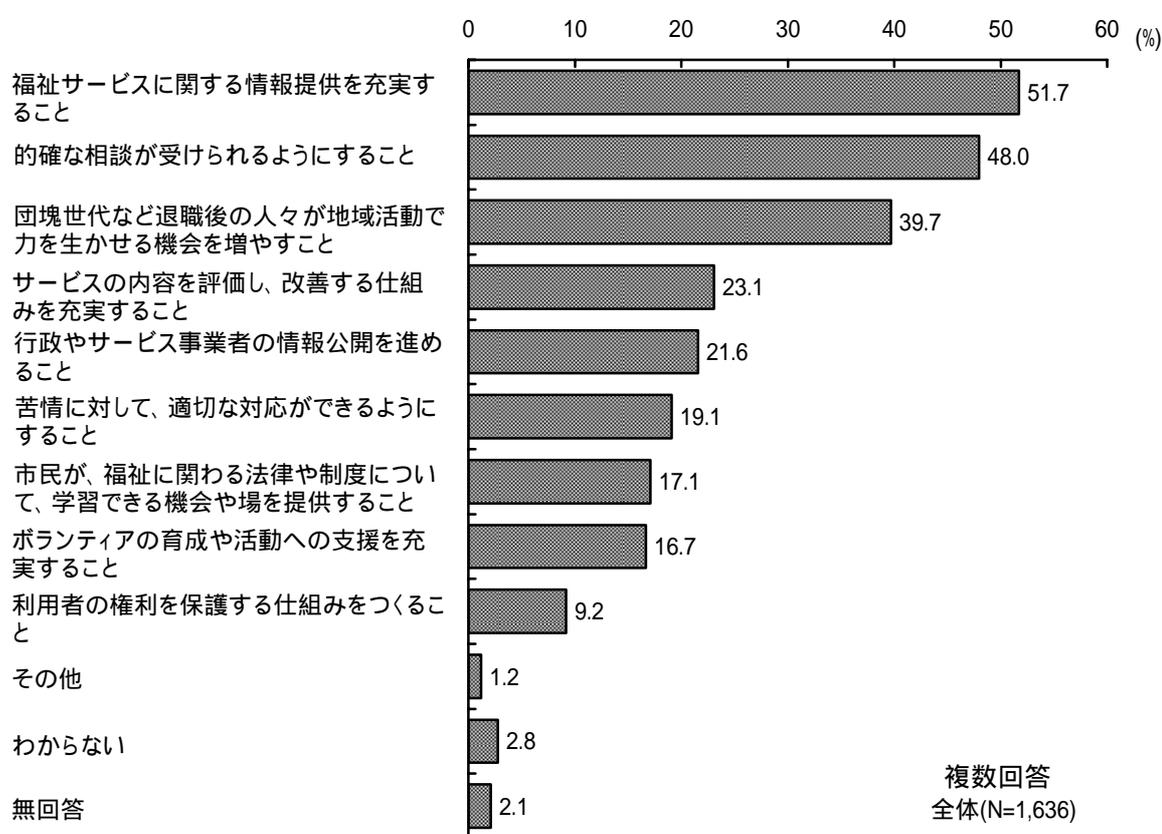
### 関連する自由回答の抜粋

- ・ 団塊世代など退職後の人々がボランティア活動などに参加を希望する場合の情報を、広報などを通じ、詳しく知らせたい(性別、年齢不明)。

## 市が取り組むべき施策

「利用者本位の福祉」を実現するために、市が優先的に取り組むべき施策についてたずねました。

「福祉サービスに関する情報提供を充実すること」が最も多く、約半数の人が優先的に取り組むべき施策としています。このほか、「的確な相談が受けられるようにすること(48.0%)」、「団塊世代など退職後の人々が地域活動で力を生かせる機会を増やすこと(39.7%)」上位にあげられています。



### 関連する自由回答の抜粋

- ・ 本当に福祉サービスの必要性を感じたときに、具体的にどのような内容であるかを分かりやすく市民に示す情報が欲しい。また、そのために必要な手続はできるだけ簡潔にしてほしい(女性、35～39歳)。
- ・ 福祉、行政サービス等、利用者から自ら申請、手続をするのではなく、もっと行政側から能動的に動けるシステム、仕組みが必要である(男性、45～49歳)。